

## 平成 22 年度事業報告書

特定非営利活動法人 藤沢ラグビー蹴球倶楽部

### 1. 事業の成果 総括

当倶楽部の活動は特定非営利活動に係る事業に限定され、営利活動は行っていない。報酬を受ける役員、給与を支払っているスタッフ共にいない、純粋な特定非営利活動団体である。特定非営利活動に係る当倶楽部の平成 22 年度事業活動について、以下の通り報告する。

当倶楽部の事業内容は、定款第 5 条に規定されているように、1) ラグビースクールの運営に係わる事業、2) ラグビーフットボールの振興・普及に係る事業、3) ラグビークラブチームの育成・指導に係わる事業、4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係わる事業、5) その他倶楽部目的を達成するために必要な事業 となっている。これらの事業全般につき、平成 22 年度は会員や関係者の献身的な活動により、計画通りの進展と所期の成果をあげることができた。

特に平成 22 年度は、創立 40 周年（ラグビースクール創立 40 周年、NPO 法人化 10 周年）の記念すべき年にあたり、倶楽部をあげての記念イベントに取り組んだ。記念事業全般については後述するが、競技部は各事業主体ごとに記念遠征を行い、遠征先との交流を一段と深めることが出来た。また記念事業の一環として、40 周年記念誌を刊行し、倶楽部名簿の整備を行い、更に記念グッズの製作販売も行った。記念イベントの締め括りとして、2011 年 3 月 6 日には当倶楽部ドリームチームと横浜 YC&AC コンバインドチームとの記念試合を挙行し、夜は藤沢市民会館にて各界から約 300 名の参加を得て記念パーティーを開催し、40 周年記念イベントを成功裡に終わらせることができた。

ラグビースクール事業は、生徒数 203 名、登録指導員数 71 名にて運営し、神奈川県下で 4 番目の生徒数を抱えるラグビースクールである。40 周年を迎えるにあたり、3 ケ年計画で全学年県大会優勝の目標を掲げて、事業を推進してきた。結果的には全学年優勝とはならなかったが、小 6 の 2 チームと小 3 の 1 チームが全勝優勝を果たし、かつ小 4 と小 3 の各 1 チームが準優勝という成果をあげ、ここ 2 ～ 3 年で着実にチーム力が向上していると評価できる。また 40 周年記念遠征として、磐田（静岡県）、秋田、北海道に各学年が遠征し、それぞれ以前より交流のあるヤマハ R S、秋田市エコー少年 R S、北海道バリアンズ R S 等と試合をし、かつ友好を深めた。

神奈川県クラブラグビーリーグに所属するトップチーム（湘南プレイボーイズ）は、昨年に引き続き 1 部リーグにて春季、秋季のリーグ戦に参加した。東日本大会予選を兼ねた春季大会では、勝率こそ同じであったものの得失点差で勝ちあがれなかったが、その活躍により、国体には神奈川県代表として参加することが出来た。残念ながら関東ブロックで勝ち上がることが出来なかったが、社会人チーム（関東社会人 1 部クラス）と互角に渡り合える実力がついてきたと思料する。

タッチラグビーチーム（湘南グラスボーイズ）は昨年に引き続いて県内外の各大会で好成績を残した。スーパーリーグや日本選手権等の全国レベルの大会に常連として参加しているほか、11 月の東西交流戦では優勝するなど、存在感が一段と増している。更に湘南 G B 主催の大会も継続実施し、日本のタッチ界を牽引する存在となりつつある。また 40 周年記念事業の一環として、チームとして初めての海外遠征を行った。

シニアチームは春秋の藤沢大会（藤沢マスターズ）の常連として欠かさず参加し、海老名マスターズ

や藤沢市民大会へも単独チームを編成して継続参加している。また本年度は 2010 年 4 月に、40 周年記念事業の一環として新潟に遠征し、新潟不惑と戦いかつ交流を深めることができた。

女子ラグビー（湘南スプリングーズ）部門は本年度登録者 0 という状況となったが、スクールの小中学在籍の女子が女子連盟主催のガールズフェスティバル等に積極的に参加し、将来の女子チーム復活の礎となりつつある。

## 1) ラグビースクールの運営に係わる事業

創立 40 周年目にあたる平成 22 年度に、県大会で全学年優勝（Head 40 Victory）という目標を掲げて 3 ケ年強化計画を策定・推進してきたが、その最終年度として本年度は、全学年優勝こそならなかったものの、小 6 の 2 チームと小 3 の 1 チームが全勝優勝し、小 4 と小 3 の各 1 チームが準優勝という成果を出し、着実にチームの強化が進んでいることを実証できた。

平成 22 年度は、指導体制をここ 3 年間継続・固定し、指導実施項目として昨年に引き続き、①共通目標の理解・一元化 ②年間練習計画の立案 ③月次・日々の練習計画のコーチ間における認識の一元化 ④練習成果の把握・レビューの実施 ⑤ミルキー～ミニ～ジュニアのパスウェイの見直し再確認 という基本方針を通じて、チームを勝たせる指導を引き続き推進した。そして「シンプル、反復、強弱、理解」をスローガンに掲げ指導に臨んだ。

指導体制は昨年に引き続き、スクール校長の下に全体を統括する総監督をおき、ジュニアクラス（中 1、中 2～3）、ミニクラス（小 3～4、小 5～6）、ミルキークラス（幼～小 2）の 5 ユニットの基本に、各クラス統括ヘッドを置くとともに、各学年毎にヘッドと指導員とを配置し、ユニット内での指導交流や合同練習をできる体制とした。

3 月 21 日に指導員研修会を開催して指導方針を徹底し、4 月 10 日に入校式を行った。以降毎日曜日の午前中をラグビーの指導・練習日とし、小学 5 年生以上は土曜日にも練習日とした。

5 月 2 日～3 日にかけて中学生は春合宿を行った。5 月 16 日には 3 年ぶりに汐見台グラウンドでラグビーフェスティバルを開催し、多くのラグビー未経験の子供たちも集まり、生徒勧誘に有効な行事として定着している。

7 月 24 日～26 日には例年通り中学生が菅平ジャンボリーに参加して各県チームと試合を行い、8 月 13 日～16 日には恒例の夏合宿を、山梨県富士緑の休暇村で実施した。夏合宿には小学 3 年生以上の生徒が 125 名と、指導員 50 名、OB 19 名の他に、約 50 名にのぼる父母が参加し、厳しい練習と、隣り合う学年同士の試合、及び中学 A チームと OB を中心としたチームとの試合等を通じて、ラグーマンとしての大きな成長を遂げるとともに、各学年を超えた班編成による共同生活を体験することにより、上級生は指導力を、下級生は協調性を身につける大きな機会となった。

この間 6 月から 8 月にかけて創立 40 周年記念遠征を組み、小 3～4 は 6 月 5～6 日にかけて静岡県磐田でヤマハ RS と、小 5～6 は 8 月 20 日～22 日に秋田で秋田市エコー少年 RS と、中学生は 8 月 27 日～29 日に北海道でバーバリアンズ RS と、それぞれ交流試合を行った。また幼～小 2 のミルキークラスは、地元にて地引網大会を開催した。

9 月から小学校 3 年生以上は秋の県大会に臨み、小学生は 9 チーム、中学生は A チームと中 1 チームとで参加した。小学生のうち、小 3 の 1 チームと小 6 の 2 チームが全勝優勝し、また小 3 と小 4 の各 1 チームが準優勝となり、小学生全体の勝敗数では 17 勝 13 敗と、昨年に比べて大幅に改善された成果を残した。小学生の全試合を通じての 1 試合平均得点が 41 点に対し平均失点は 27 点と、得失点率でも大きく改善した。中学生は、中 1 中心の B チームが準優勝を果たしたが、A チーム（中 3～2）は決勝リーグで 7 位という結果となった。

小 3 以上の県大会とは別に、幼児～小 2 までのミルキークラスでも県下各ラグビースクールが集まってのミルキー交流大会が開催され、当スクールミルキー各学年も積極的に参加した。ミルキーなぎさ大会は当初の 10 月 10 日が雨で順延となり、11 月 14 日に開催された。また 11 月 23 日予定のミルキー海老名大会は、雨で中止となった。

県大会終了後、2011 年 2 月 13 日と 19 日に、初めての試みとして神奈川県協会主催の第一回ミニラグ

ビーファイナルカップが開催された。これはミニラグビーの集大成である小学校6年生チームを対象に、県下15のラグビースクールの最強チームを決定するトーナメント大会で、当スクール小6チームは決勝に勝ち上がり、決勝戦の相手は田園RSとなった。トライは同数ながら1ゴール差の26対28で敗れ、惜しくも準優勝となったが、県下に古豪藤沢復活の強い印象を植え付けた。

課題も依然多いが、この3年間は全体として着実に前進していると評価できる。平成23年2月6日にはラグビースクール卒業式を行い、16名の中学3年生が巣立っていった。ラグビースクールは平成23年2月13日より、新学年指導体制への切り替えを実施した。

## 2) ラグビーフットボールの振興・普及に係わる事業

本年度も藤沢市ラグビーフットボール協会、神奈川県ラグビーフットボール協会、関東ラグビーフットボール協会の主催するラグビーの振興と普及を図る活動に、積極的に参加、協力を行った。

藤沢市協会の主催する第29回藤沢市ラグビーフェスティバルは7月18日に秋葉台グラウンドで行われ、当倶楽部からはラグビースクールの小・中学各学年が参加した。また9月12日には第30回藤沢市ラグビー大会が秋葉台グラウンドで開催され、ラグビースクール各学年と湘南プレイボーイズが参加し、大会の主役を果たした。

神奈川県協会主催のラグビースクール秋の県大会は、小学3年が3チーム、小学4年が2チーム、小学5年が2チーム、小学6年が2チーム、中学生はAチーム(中3、中2)とCチーム(中1)の2チームが参加し、小3の1チームと小6の2チームが全勝優勝し、小3と小4の各1チームが準優勝した。またミニラグビーファイナルカップでは、決勝戦で惜しくも田園RSに1ゴール差で敗れたものの、準優勝の成果を上げた。

トップチーム(湘南プレイボーイズ)は、日大藤沢高校及び法政第二高校など高校へ出向き、練習相手や技術指導を行った。オフシーズンである1月から3月においては、積極的に県外のチームと練習試合を行うなど、交流・振興を図った。また、東日本地区を対象とした都道府県大会に6名の選手が選抜された。神奈川代表は惜しくも埼玉県に敗れたが、神奈川代表の一員として、振興の一翼を担った。

タッチラグビーチーム(湘南グラスボーイズ)は毎週土曜日に定期練習を行うとともに、各地のタッチ大会に積極的に参加し、本年度も優秀な成績を収めた。春秋のスーパーリーグに継続参加し、年間成績第4位の結果となるとともに、千葉・東京の各大会にも積極参加した。9月のジャパンタッチフェスティバルEastで4位、ジャパンカップEastでベスト8、更に静岡で11月に開催された東西交流戦では優勝を、また日本選手権ではベスト8に入る等、東日本の強豪チームに育ちつつある。

他方で湘南グラスボーイズが主催する大会も増えており、5月には交流戦を、7月には第9回湘南大会を、11月には第3回神奈川大会をそれぞれ実質的に主催した。

シニアチームは隔週日曜日に練習を行うとともに、春秋の藤沢マスターズや藤沢市民大会、更に海老名他のマスターズ大会に積極的に参加した。また2010年4月24日~25日にかけて、40周年記念事業の一環として新潟に遠征し、新潟不惑と交流試合を行った。40才以上の指導員とタッチメンバーで構成されているが、近時若手の指導員も参加してメンバーが増加しつつある。

女子チーム(湘南スプリングガーズ)の本年度登録選手は0となり、残念ながらチーム編成は出来なかったが、女子連盟行事に積極的に参加した。11月には女子連盟主催のガールズフェスティバル(熊谷ラグビー場、女子小学生も参加)等に参加することにより、各地の女子選手との交流を深めた。

## 3) ラグビークラブチームの指導育成に係わる事業

トップチームはラグビースクールOBを中心としたチームであるが、全国クラブラグビー大会へ出場し、クラブ選手権を制覇することを究極の目標としており、仕事や子育てに追われる一方で週末に練習を重ねている。従来はラグビースクールOBが主体だったが、近時OB以外のラグビー経験者が入ったことにより選手層に厚みが増し、かつチームプレーの徹底とコンビネーションのための意識統一を行った結果、神奈川県リーグ戦の1部リーグに定着している。本年度は国体神奈川代表となり、関東社会人1部リーグのチームと互角に戦う実力をつけつつある。

タッチチームは神奈川県でのタッチラグビー普及の基礎作りを推進しており、6年前には当タッチチームが主体となって神奈川県タッチ協会を結成した。近時はメンバーが日本タッチ協会の勉強会やレフェリー講習会に参加する等、活動が神奈川から日本レベルを視野に置きつつある。更に2011年にはスコットランドでタッチワールドカップが開催されるが、MEN30及びMEN35クラスの全日本代表に、当倶楽部より3名が選出されている。

女子チームは育成途上にある。本年度は登録メンバーが0と、単独チーム編成は困難な状況にあるが、通常はラグビースクールの中で練習を行い、女子連盟行事へも参加している。小学生の各学年に2～3名の女子が在籍しており、中学生以降もラグビーを続けるよう動機付けが必要と考える。

コーチ養成については、県協会主催のスタートコーチ研修会やレフェリー講習会に積極的に参加し、各々資格取得にチャレンジしている。スタートコーチ資格は既に昨年度にはほぼ全指導員が取得しており、本年度はC級レフェリー資格を〇名が取得した。なお3月に予定されていた藤沢市協会、神奈川県協会主催の指導者講習会は、東日本大震災の影響で中止となった。

#### 4) 県内外団体とのラグビー交流を通じた振興普及活動

本年度は創立40周年記念事業の一環として、後述するように各事業主体毎に県外遠征を行い、それぞれ受け入れ先との交流を図ることができた。ラグビースクールは小3～4が静岡県磐田に、小5～6が秋田に、中学が北海道に遠征し、タッチチームは韓国ソウルに、またシニアチームは新潟に遠征を行った。

また年末に花園ラグビー場で開催された第16回全国ジュニア大会には、神奈川スクール選抜に当スクールより選手2名、コーチ1名を派遣し、全国の中学生ラグーマンとの交流を図った。

#### 5) その他スポーツを通じた地域活動

ラグビーフェスティバルは過去2年間雨のため中止となっていたが、本年度は天候に恵まれ、3年ぶりの開催となった。本フェスティバルは、地域住民との交流やラグビーフットボールへの理解を深めることに効果があり、地域住民の参加者も多く、参加者の中から、ラグビースクールへの入校者も出て、ラグビーフットボールの振興普及に対して有効であるため、今後も継続して実施して行く。

10月の藤沢市スポーツ少年団の交歓会には、小5、小6年生が参加した。また12月には、地域交流の一環として辻堂砂山市民の家祭に参加し、スクール生徒による幼児への工作指導や焼きそば屋出展等の活動を行い、辻堂地区住民との交流を深めた。12月12日にはなぎさグラウンドにて、県下全ラグビースクール参加のもと、冬季交流運動会が開催された。

2011年2月20日に辻堂海浜公園で行われた第5回子供駅伝大会には、小3～小6の各チームが参加し、他のランニングチームと競い合った。

#### 6) NPO法人としての安全対策強化等の社会貢献活動

2000年にNPO法人化して以降、特定非営利活動法人格を持つラグビーチームとして、社会貢献活動への協力の可能性についても模索してきた。3年前より、「乳がんの早期発見及び乳がん検診の啓発運動（ピンクリボン運動）」を推進しているNPO法人J.POSHの活動に協賛し、倶楽部としてピンクリボン運動のロゴマークをジャージに貼付する等、活動を継続している。

昨年度に倶楽部としてAED（半自動除細動器）を購入し、心停止状態発生の緊急事態に備え、活動中常備することとした。7月に実施した安全講習会では、AED取扱操作の講習を中心に実施した。

更に県協会主催のメディカルサポーター講習会（8月29日）にも多数の指導員が参加し、資格更新を行った。

2011年に入って発生した2月22日のNZクライストチャーチ地震、3月11日の東日本大震災に対し、倶楽部として救援募金を行い、NZに対しては日本協会経由で、また東日本大震災に対しては神奈川県協会ラグビースクール部会を通じて、それぞれ募金を渡した。

## 7) 広報活動の強化

倶楽部広報紙「ラグビー藤沢」の第19号を発行し、全会員、ラグビースクール生徒と父母、スクールのOB等に配布した。また、ラグビースクール生徒募集活動（リクルート活動）を常時展開し、春先にはリクルートパンフを作成して幼稚園や小学校で配布した。更に中学3年生卒業記念文集を例年通り発行し、卒業生の熱い想いを後輩たちに伝えた。

本年度は40周年記念事業として「40周年記念誌」を作成し、2011年2月に刊行配布した。記念誌はA4版全117ページで、850部印刷刊行し、倶楽部会員、スクール生徒父母、OB関係者のほか、記念パーティー参加の来賓や広告協賛企業、内外ラグビー関係団体等に配布した。

倶楽部のPRや会員への迅速な情報伝達的手段として利用されているホームページは適宜更新を実施している。写真を多用し、オンタイムな更新を心がけており、延べ5万5千人以上の年間アクセス件数があり、ホームページを通じ、体験希望者や入会申込者も増加傾向にある。

2010年12月12日には神奈川県ラグビー協会より、〇〇氏が永年にわたるラグビーの普及貢献に関わる功労賞が授与された。

## 8) 本年度会員数、各事業登録者数

以上の活動を支える当倶楽部の会員数は、2011年3月末時点で下記となっている。

正会員	127名
個人賛助会員	40名
法人会員	3社

また各事業活動の登録者数は下記の通りである。

ラグビースクール：	生徒数	203名
	指導員数	71名
トップチーム	：	51名
タッチチーム	：	49名
シニアチーム	：	40名
女子チーム	：	0名

正会員数は昨年比増加となったが、個人賛助会員数が減少傾向にあり、来年度に向けて引き続き勧誘活動の強化が必要である。また倶楽部の財政基盤充実のために、法人賛助会員拡大の活動が必要と考える。

## 2. 創立40周年記念事業

2010年度は、藤沢ラグビースクール創立40周年、NPO藤沢ラグビー蹴球倶楽部設立10周年にあたる。節目となるこの40周年を、倶楽部を挙げての記念イベントに取り組むために、1年前より実行委員会を発足させ、1) 競技イベント実行委員会、2) 記念事業イベント実行委員会 の体制で、企画・推進してきた。2011年3月6日の記念試合／記念パーティーをもって本事業を締め括ったが、県内外や海外とのラグビーを通じての一段の交流強化、倶楽部内の結束や倶楽部理念の共有強化等、大きな成果と、次の50周年に向けての意識の向上を図ることができたと思料する。

以下に競技イベントと記念事業イベントとに分けて、40周年記念事業の実施状況につき報告する。

## 1) 競技イベント

### ①ミルキー・地曳網大会 (参加 200 名)

当初 6 月 27 日に、大和 R S を招いて辻堂海岸で実施予定であったが、天候悪化で中止となり、代わって 10 月 24 日に、ミルキークラス生徒、父母、指導員等約 200 名が参加して実施した。砂浜でのボール取りゲーム、相撲、タッチフラッグ等のゲームを行った後、地曳網に全員で挑戦。大量の生シラスが獲れ、皆で魚の天ぷらや釜揚げシラスでお昼を楽しんだ。

### ②小 3～4 ミニ・ヤマハ遠征 (参加 50 名)

6 月 5 日～6 日にかけて、以前より当スクールと交流のある静岡県磐田市のヤマハ R S に遠征。宿泊は「ヤマハリゾートつま恋」。6 日に芝のすばらしいジュビロ大久保グラウンドでヤマハ R S と交流試合を実施。小 3 は 2 チームとも当スクールの勝利で、小 4 は 1 チームが勝利、1 チームが引分けとなった。従来中学の交流が主体であったが、今後は小学生にも芝生での試合を経験させたい。

### ③小 5～6 ミニ・秋田遠征 (参加 50 名)

8 月 21 日～23 日の 3 日間、30 年以上交流を続けている秋田市エコー少年ラグビークラブとの交流を行うために遠征。鳥海高原ユースプラトーにて秋田市エコーのメンバーと合同宿泊し、天然芝のグラウンドで各学年 2 試合ずつの計 4 試合交流戦を行った。4 試合とも好ゲームを展開。最終日は男鹿半島観光をして帰藤。

### ④中学ジュニア・北海道遠征 (参加 33 名)

8 月 27 日～29 日の 3 日間、札幌定山溪にあるバーバリアンズクラブに遠征し、バーバリアンズ Jr を主体とした各チームと交流。北海道バーバリアンズは、藤沢ラグビー蹴球倶楽部に先駆けてラグビー界で初めて N P O に認証された団体である。8 月後半の遠征は、中学生にとって受験勉強等との兼ね合いで難しい時期であったが、多数の中学生が参加した。交流試合は北海道バーバリアンズ Jr を中心とした道央スクール合同チームとの対戦の他に、北海道中学生選抜チームとも実施。道央スクール合同に対しては藤沢 A (中 3、中 2)、藤沢 C (中 1) とともに快勝。北海道中学選抜とは藤沢 A が対戦し、一進一退の好ゲームとなり、1 ゴール差の惜敗となった。

### ⑤タッチ (湘南グラスボーイズ & G) ・ソウル遠征 (参加 16 名)

9 月 3 日～5 日にかけて、韓国・ソウルで開催された 'International Touch in Seoul 2010' に参加。湘南 G B にとっては、チームとして初の海外遠征で、韓国軍アカデミーの芝生グラウンドでトーナメント戦を行い、湘南 G B はオープンクラスにエントリー (参加 14 チーム)。予選リーグ 3 戦全勝で決勝トーナメントに進出、準々決勝で惜しくも 1 トライ差で Seoul Survivors に敗れた。日本、韓国、香港、上海から多くのチームが参加し、タッチ仲間との交流を楽しんだ。

### ⑥シニア・新潟遠征 (参加 20 名)

4 月 24 日～25 日に、シニアとして初の県外遠征。相手は新潟工業 O B 主体の新潟不惑ハーフブラックス。24 日は双方メンバーにてビフォアフアンクションで盛り上がり、新潟不惑は彼らの部歌を斉唱。翌日の試合は、人数で大きく上回り、かつ何人かの若手？投入の新潟不惑に対し、当クラブシニアは残念ながら敗れたが、素晴らしい人工芝グラウンドで楽しいゲームとなった。今後も新潟不惑とは、ときどき交流することを約して別れた。

### ⑦40 周年記念試合

初めての当倶楽部ドリームチーム 'FUJISAWA 40 SELECT' を結成し、3 月 6 日の記念イベント締め括りとして、昼の部の記念試合を挙行了。横浜山手の YC & AC グラウンドで、YC & AC と東京クルセダーズとのコンバインドチーム (全員外国人) と対戦。ドリームチームは当ラグビースクール O B で企業や大学の第一線で活躍しているメンバーに湘南 P B からのメンバーを加え、総勢 26 名。ヘッドコーチは 13 期卒の中瀬真広氏が務め、日本代表経験者を数名含む最強チームである。試合にはスクール生徒、父母、指導員、O B 等が応援に駆け付け、小 1～小 3 の生徒がエスコートキッズを務めた。試合結果は、相手が合同チームだったこともあり、FUJISAWA 40 SELECT の圧勝に終わった。アフターファンクションでは、双方の MOM (マンオブザマッチ) 選手を選出し、健闘を称え合った。

## 2) 記念事業イベント

40周年記念事業として、①40周年記念誌刊行 ②倶楽部名簿整備 ③記念パーティー ④記念グッズの制作販売 を行った。

### ①40周年記念誌

嶋崎理事をリーダーに40周年記念誌編集委員会を設置し、編集メンバーの献身的な努力によって、2月初めにA4版全117ページの記念誌が完成。倶楽部会員、生徒父母、OB関係者に配布したほか、後述の記念パーティー出席の来賓、広告協賛企業、内外ラグビー関係団体等に配布した。発行部数は850部。内容は、藤沢ラグビー蹴球倶楽部10年の歩み、ラグビースクールの歩みと各学年の活動状況、湘南SP（女子チーム）・湘南PB（トップチーム）・湘南GB（タッチチーム）・シニアチームそれぞれの歩み、40周年記念遠征等の報告、倶楽部資料、及びスクール誕生物語等である。

また25社から広告協賛をいただき、それぞれの広告を掲載した。

### ②倶楽部名簿整備

倶楽部の正会員（指導員、PB、GB、一般会員）や個人賛助会員の名簿として従来管理していた物に加え、過去40年のスクールOB/OG、指導員OB等の名簿整備を行った。OBについては転勤等による住所変更が激しく、全員の名簿整備は難しかったが、ほぼ80%の把握ができた。なお個人情報管理の観点から、名簿は紙ベースでは作成せずに、倶楽部PC内にデータとして保存し、閲覧や利用にあたっては、倶楽部個人情報保護規定に準じて行うこととなる。

### ③記念パーティー

2011年3月6日の18時より藤沢市民会館展示第一ホールにて、約300名の参加のもと開催した。主な来賓は、藤沢市長、国・県・市議員、ラグビー日本協会・関東協会・神奈川県協会・藤沢市協会のトップ、スクール生徒進学先の各高校ラグビー部監督、県内外のラグビースクール関係者の他に、河野日本体育協会理事、島田早大ラグビー部長、小峯日本ライフセービング協会理事長等にも出席いただいた。倶楽部側の出席者は各会員、スクール生徒父母、OB/OGで、盛大であった。パーティーは、理事長挨拶、来賓挨拶の後、過去10年間の倶楽部関係ご逝去者へ黙祷を捧げ、その後祝電披露、鏡開きへと進んで、途中で東京パイプクラブ10名によるバグパイプ演奏、40周年の歩みのプロジェクト表示、記念試合メンバーや試合内容紹介等を経て、最後に功労者への感謝状贈呈、80才台/70才台長老への紫/黄色ラグビーパンツ贈呈があり、スクール創設者の高橋陽之助氏による中締めで21時に閉会した。

なお会場で、NZクライストチャーチ地震への義援金募金を行い集まった23,000余円の募金を日本ラグビー協会に委託した。

### ④記念グッズの作成・販売

40周年記念グッズとして、Tシャツ（白、紺、赤）とポロシャツを作成し、倶楽部関係者へ販売するとともに、Tシャツは記念遠征での相手先贈呈等に活用した。販売総枚数は431枚で、収益は記念事業の一部に充当した。

## 3) 記念事業の資金手当

今回の記念事業実施にあたり、40周年記念誌への広告協賛を募り、また倶楽部会員や生徒父母、スクールや指導員OB/OGにも個人協賛寄附のお願いをした。更に過去2年間、本事業のために積み立ててきた引当金の充当と、倶楽部内部留保の一部取崩とで、記念事業全体の資金手当を行った。

記念誌への広告協賛は25社、83万円、個人協賛寄附は188名、109.1万円となった。40周年記念事業の決算は、2号議案にて報告する。

以上

### 3. 事業内容（40周年記念事業に関わる内容は前項に記述してあるため、以下から除いてある）

（特定非営利活動に係る事業）

事業名	事業計画	実施日時	実施場所	従事実人数	受益対象者範囲と人数	支出額（千円）	活動実績と結果
1 ラグビースクールの運営に係る事業(定款第5条第1号に係る事業)	1. 地域に於ける4歳から18歳迄の少年、少女を対象としたラグビーの技術的・精神的指導	通年 毎日曜日 小5以上 は土曜も 実施	辻堂海浜公園 秋葉台球技場他	71名	4歳～18歳 203名  保険は指導員共	登録112 用具513 グラント 146 保険280	1. 計画通り実施し、初期目的を達成した H. 22. 4～H. 23. 3(除く8月) 計46回開校、参加人員毎回 生徒約200名平均、コーチ約70名
	2. 夏期合宿練習	8月	山梨県 富士緑の休暇村	50名	8歳～15歳他 125名	5,410	2. 計画通り実施し、当所の目的を達した
	3. ラグビースクール 交歓運動会開催	12月	横浜市	40名	4歳～15歳 203名	-	
	4. 中学3年生卒業式	2月	藤沢市	70名	中学3年生 16名	212	(卒業文集作成費は別途)
2 ラグビーフットボールの振興普及に係る事業(定款第5条第3号に係る事業)	1. 藤沢ラグビーフェスティバル	7月	藤沢市	70名	約200名	-	R S各学年が参加
	2 ラグビースクール 交流試合参加 高校フェスティバル 法政二高 桐蔭学園 東海大相模 藤沢市民大会	9～12月  6月 6月 6月 9月	神奈川県内  法政二高G 桐蔭学園G 東海大相模G 秋葉台球技場	49名  5名 5名 5名 60名	8歳～15歳 延1,000名  中学 49名 中学 49名 中学 49名 約200名	-  10 10 10 30	1. その他スポーツを通じた地域活動の 項参照 2. 神奈川県ラグビースクール交流試合 等に出場した 県内の高校で開催されるラグビー フェスティバルに招待された 藤沢市民大会で小中学各学年と 湘南PBの試合が実施された
	3. ラグビースクール 中学菅平ジャンボリー	7月	菅平	8名	中学 49名	947	3. 菅平ジャンボリーに参加
	4. トップチーム 都道府県大会 神奈川県ラグビー選手権 交流戦	4月 春、秋	埼玉県 保土ヶ谷ラグビー場 他	6名 50名	6名 50名	155 -	4. 国体参加、各大会参加
	5. シニアチーム 交流試合	9～2月	秋葉台球技場 善行G他	25名	25名	6	5. 年度を通じ6試合実施
	6. タッチチーム スーパーリーグ 前後期 千葉、東京大会 第9回湘南大会 Japan Cup East 東西交流戦 日本選手権 第3回神奈川県大会	4～10月 5月、6月 7月 9月 11月 11月 11月	埼玉県 千葉県、東京都 辻堂海浜公園 静岡県裾野 静岡県草薙 静岡県草薙 神奈川県	11名 10人 40人 13名 14名 14名 20名	延べ39名 延べ17名 117名 13名 約200名 約200名 約200名	19 33 60 53 26 18 50	6. 年間55回の練習と、東西交流戦での 優勝を始め、各地の大会で好成績 をあげた



事業名	事業計画	実施日時	実施場所	従事実人数	受益対象者範囲と人数	支出額(千円)	活動実績と結果
	7. 女子チーム 第3回ガールズフェスティバル	11月	埼玉県	1名	6名	50	7. 関東連盟主催の講習会やガールズフェスティバルに参加
3 ラグビークラブチームの育成指導に係る事業(定款第5条第2号に係る事業)	1. トップチームの育成・指導 2. 女子チームの育成指導 3. タッチラグビーチームの育成・指導 4. コーチ、レフェリー、メディカルサポーター等指導監督者の育成プログラムへ参加 C級レフェリー資格試験	毎日曜日 毎日曜日 通年 毎土曜日 随時 (3～4回) 3月	秋葉台球技場ほか 辻堂海浜公園 辻堂海浜公園 神奈川県内	4名 1名 49名 2名 3名	成人男子 35名 女子生徒 6名 49名 40名 3名	登録 68 保険 32 -	1. レギュラーチームは新規メンバー強化を図り、定期的な練習を実施 1部リーグに定着、国体出場 2. 左記練習他、関東連盟主催の講習会やガールズフェスティバルに参加 3. 一般市民の参加があり、ラグビー普及効果があった。メンバーの増加、市民への浸透など効果を上げた。 3名がC級レフェリー資格を新規取得
4 その他スポーツを通じた地域活動(定款第5条第4号に係る事業)	1. 倶楽部祭(運動会) 2. ライフセービングクラブとの交流 3. 藤沢市スポーツ少年団活動 4. 辻堂砂山市民の家祭 5. 海浜公園駅伝大会	5月 7月 10月 12月 2月	藤沢市 藤沢市 藤沢市 藤沢市 藤沢市	70名 1名 15名 20名 40名	400名 45名 35名 20名 40名	70 10 9	3. 小5、小6が参加 4. 幼児への工作指導と焼きそば出店 5. 小3～小6の各学年が参加
5. 機関紙、パンフレット等の発行事業(定款第5条第5号に係る事業)及びHPの運営事業	1. 倶楽部案内、活動状況を掲載した新聞発行 2. 中学卒業文集 3. HPの運営	7月 2月 毎月	倶楽部事務所 倶楽部事務所 倶楽部事務所	4名 4名 1名	OB、生徒、会員全員 生徒、会員 会員全員及び一般	55 70 12	1. 機関紙は発行1回 ホームページに練習日のお知らせを掲載し充実を図ったことにより体験者の参加が増えた 2. 中学3年生全員と関係指導員で、卒業文集を作成した。 3. HPを定期的に更新

# 決 算 報 告 書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

収支計算書  
財産目録  
貸借対照表  
計算書類に対する注記

特定非営利活動法人  
藤沢ラグビー蹴球倶楽部

# 平成22年度 収支計算書

(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(藤沢ラグビー蹴球倶楽部)

(単位：円)

科 目	金 額		備 考
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入金収入			
正会員年会費収入	1,532,600		
賛助会員年会費収入	110,000		
入金収入	10,000	1,652,600	
2 事業収入			
FRS年会費収入	2,307,000		
夏合宿参加費収入	4,927,950		
40周年記念事業収入	3,359,210	10,594,160	
3 その他収入			
受取利息	7,854		
寄付金収入	199,750		
雑収入	800	208,404	
経常収入合計			12,455,164
II 経常支出の部			
1 事業費			
用具費	794,367		
グラウンド使用料	66,800		
損害保険料	389,800		
夏合宿費用	5,247,621		
対外試合費用	292,616		
チーム育成費	251,500		
コーチ育成費	0		
タッチ活動費	399,513		
ラグビー祭他地域交流費	118,818		
卒業式諸費	167,267		
40周年記念事業費	4,678,670		
広報活動費	294,180	12,701,152	
2 管理費			
水道光熱費	9,494		
賃借料	496,764		
通信費	112,140		
事務消耗品費	210,940		
支払手数料	108,467		
交際費	94,564		
雑費	73,622	1,105,991	
経常支出合計			13,807,143
経常収支差額			-1,351,979

(単位：円)

科 目	金 額		備 考
Ⅲ その他の資金収入の部			
1 特定事業預金収入			
40周年記念事業引当預金取崩収入	600,000	600,000	
その他の資金収入合計			600,000
Ⅳ その他の資金支出の部			
1 特定事業預金支出			
倶楽部ハウス修繕引当預金支出	300,000	300,000	
2 貯蔵品購入支出			
販売用グッズ購入支出	301,430	301,430	
その他の資金支出合計			601,430
当期収支差額			-1,353,409
前期繰越収支差額			7,691,363
次期繰越収支差額			6,337,954
(正味財産増減の部)			
V 正味財産増加の部			
1 資産増加額			
当期収支差額(再掲)		-1,353,409	
クラブハウス修繕引当預金額		300,000	
貯蔵品購入額		301,430	
資産増加額合計			-751,979
Ⅵ 正味財産減少の部			
1 資産減少額			
40周年記念事業引当預金取崩額		600,000	
什器備品減価償却額		408,498	
資産減少額合計			1,008,498
当期正味財産減少額			1,760,477
前期繰越正味財産額			10,499,863
当期正味財産合計			8,739,386

# 財 産 目 録

平成23年3月31日現在

(藤沢ラグビー蹴球倶楽部)

(単位：円)

科 目 ・ 摘 要	金 額		
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現金預金			
現金 現金手許有高	372,164		
普通預金 横浜銀行辻堂支店	298,404		
振替貯金 辻堂西郵便局	371,555		
仮 払 金	13,125		
未 収 入 金	125,460		
貯 蔵 品	301,430		
流 動 資 産 合 計		1,482,138	
2 固 定 資 産			
定期預金 横浜銀行藤沢中央支店	5,157,246		
什器備品 (倉庫棚)	1		
什器備品 (救急用AED 1台)	1		
特定支出引当預金 横浜銀行辻堂支店	2,100,000		
固 定 資 産 合 計		7,257,248	
資 産 合 計			8,739,386
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
負 債 合 計			0
正 味 財 産			8,739,386

# 貸 借 対 照 表

平成23年3月31日現在

(藤沢ラグビー蹴球倶楽部)

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金 預 金	1,042,123		
仮 払 金	13,125		
未 収 入 金	125,460		
貯 蔵 品	301,430		
流 動 資 産 合 計		1,482,138	
2 固 定 資 産			
定 期 預 金	5,157,246		
什 器 備 品	2		
倶楽部ハウス修繕費引当預金	2,100,000		
固 定 資 産 合 計		7,257,248	
資 産 合 計			8,739,386
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
負 債 合 計		0	0
III 正 味 財 産 の 部			
前 期 繰 越 正 味 財 産		10,499,863	
当 期 正 味 財 産 減 少 額		1,760,477	
正 味 財 産 合 計			8,739,386
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計			8,739,386

## 計算書類に対する注記

### I. 重要な会計方針

#### 1. 資産の評価基準および評価方法

##### (1) 有価証券

取得原価法を用いています。

##### (2) 貯蔵品

個別法による原価法を用いています。

##### (3) 固定資産の減価償却について

什器備品についてはそれぞれ備忘価額1円を残し、全額費用処理しております。

#### 2. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金及び短期金銭債権債務を含めています。

なお、当期末残高は下記Ⅱ. に記載するとおりである。

### Ⅱ. 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	1,846,620	1,042,123
定期預金	5,150,129	5,157,246
仮払金	694,614	13,125
未収入金	0	125,460
次期繰越収支差額	7,691,363	6,337,954